

2020年 6月 京橋 おかげさま 通心



いつも実習保険でお世話になっている保険代理店川Cウェストの竹本さんがマスクを届けてくれました。ありがとうございます！大切に使用させていただきます。

コロナ一色の世の中から少しずつ日常を取り戻し始めた6月。皆様におかれましては、様々なご苦労や不安を抱えながらも、それぞれの現場で奮闘されていることと存じます。また、『おかげさま通心』をお読みいただいた皆様から沢山の応援メッセージを頂戴し、日頃の感謝と共にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。様々な人とその想いが伝わり広がる紙面へと成長させていきますので、引き続き、宜しくお願い致します。ご意見・ご要望などもお寄せいただければ幸いです。



「誰のために何を為すのか」

管理者 寺村 肇



さて今回は、「久しぶりに泣いた」というエピソードからご紹介させていただきます。事の発端は5月の企業見学会の実施についてです。今期から就労支援の一環として毎月開催する予定でしたが、コロナの影響で4月は見送りました。5月の企画についても、するかしないか煮え切らないままにGWが明けていきました。世の中が動き始めたとは言え、開催すべきか否かという迷いを見直したくて、候補となっている企業様に直接訪問することにしました。経営者の想いや人柄・経営理念に加え、コロナの影響でたいへん中でも雇用を守り、新しい事業を模索し、楽しく一生懸命働く社員の皆様がおられるこの事実で感動した私は見学会開催をその場で決め、翌日には職員に企業見学会開催を伝えます。ところが職員たちからすれば、急な展開と開催まで期間の短さ、再開したばかりの利用者の皆様のコンディション不安から「見送るべき」と進言されます。自分が迷っていた気持ちと重なるその言葉に、訪問し

て得られた感動も忘れ、「コロナもあるし、またいつかどこかで開催すればいいや...」という自分になつていました。翌日、「その企業様を紹介してくれた方に中止を伝えました。まともな回答もできないまま話を終え、その日の仕事を終えた事務所で一人ポツポツとその言葉の意味を考え始めました。『見学会はコロナが落ち着いてからやれば良い』そんな風に思っている自分に向き合うとポロポロと泣けてくるんです。『見学会が誰かの未来を拓くことかもしれないな』と、思うとまたポロポロ。就職を目指す道半ばで亡くなったといったあの人の顔が浮かんでくる頃にはもうポロポロでした。ひとしきり泣いてると「就労移行支援は2年間という期限ある取り組みであって、それを求めて来てくれている彼らにとって、経済活動ともとれる取り組みを停止・延期することのリスクは計り知れない！機会ロスなく、このチャンスを活かすことこそベスト」どのような状況にあっても、その人の現状と未来を鑑み、想い、最善を尽くす、という当たり前のことを忘れては、正真会のこれからはあり得ない！というコトバに気持ちが定まっていきました。



「一杯生きる」という強い気持ちを持っています。またそれは、今の私たちに欠けている最も大切なべき原点なのだと思えました。

地域がつながるプロジェクト

今月のイベント

10月より再開の予定です

「きょうばし」見学会のご案内

6月11日(木)●10:00~12:00
6月25日(木)●10:00~12:00
(毎月第2・第4木曜日を予定)

上記日程にて、就労移行支援事業所きょうばしの見学会を開催致します。ご利用をお考えの方、企業の皆様、職員応募をお考えの方など、どなたでもご参加いただけます。お申し込みは、お電話にて、またはFAX・メールにてご希望の日にお名前とご連絡先を記入しお送り下さい。
(※本件以外でこちらからご連絡することはございません。)

TEL 06-6357-7007
FAX 06-6357-6665
kyoubashi@kind.ocn.ne.jp
HPのお問合せメールフォームからも可能です

お待ちしております。

Check

就労移行支援事業所きょうばしの6月の企業見学会は和研工業株式会社様です。

法人理念

誰もが人として暮らし、人としての喜びを感じられる社会を創造します。人の歩みを共に慶び、共に学び続けます。

正真会は3 3 8
SDGsの項目 すべての人に健康と福祉を 質の高い教育をみんなに 働きがいも経済成長も
で次の持続可能な開発目標を掲げています

月刊「京橋 おかげさま 通心」

〒534-0024 大阪市都島区東野田町5-5-16
(法人本部)電話 06-6351-8668(代表)
FAX 06-6351-3666

発行元●社会福祉法人 正真会
発行責任者●寺村 肇
制作・編集●NPO法人 チャレンジステージ

www.syoushinkai.com/

ひと 京橋の「魅力ひと」紹介

アロマ・ヒマラヤ岩塩・自然食品・雑貨のお店 「周文堂」岡本祐子さん

www.shubundo.jp/

京橋との関わりは、主人の父の代から続く書店があったこと。私は24歳で結婚して京橋へ。結婚前は障害児教育の道を行っていたが、それが自分の生涯の仕事になるかと思っていたのですが、身体を著しく壊してしまいうつ病に罹り、人生を見つめ直し、先ほどの京橋の書店商売を手伝うようになりまし。とても賑わいのある商店街の、当時は何軒かある書店のうちの1軒。でも昨今の電子書籍とネット通販メインの時代には抗えず、やがて書店はクロース。ただ、閉店前からハーブティーや精油といった自然派の製品をちよくちよく置かせてもらって、そちらの方面でお客様からのご支持をいただき、背中を押されて今のお店を始めました。

人工物に溢れた時代。自然メインの昔ながらの製品は、かえって需要があります。例えば、アロマテラピーは香りを楽しむだけではなく、あらゆる健康維持や滋養強壯に使えます。この関係で、正真会さんのイベントにも参加させていただきました。「キッズアロマ」



というテーマでイベントを実施。クリスマスのものを作りましたね。香りをつくったり、シールを貼ったり。たくさんの子供たちが集まってくれて、とても楽しい時間を皆さんと過ごせました。

京橋の魅力は、やはり「人」だと思います。古くから続いているお店から、新しく大きな店舗もあって新旧文化は様々ですが、それぞれの枠の中にある「人」は共通して、とても明るく、人懐こい感じ。枠が商いを縛っているのではなく、人が一緒に手をとり合って、商いを盛り上げていく。だから、京橋の商店街は、いつも賑やかなのだと思います。

今のお店のお客さんは子供がメインではありませんが、障害児教育でいろんな子供たちと接してきた経験が活きていて、その積み重ねが京橋の「人と人」の文化にしっかりと繋がっています。人生には色々な事がありますけれど、全てに意味があったんだという気がしています。これからは京橋の一員として、人の気持ちを汲み取って、思いやりを持って繋がりが合える存在でありたいと心から願っています。

編集後記

◆コロナ禍において「背に腹はかえられない」状況は、考えられるいくつものリスクをどのように判断し、行動をするのか？何が正しい選択なのか？人の価値観がいくつもある中で、それこそ人間関係にも支障をきたしかねない今日この頃。いまだかつて経験したことのないことに直面すると、人はこんなにも疑心暗鬼になり、心が不安定になるのかと思いが知らされました。それでも「固い信念と柔軟な思考を持ち、常に最善最良の選択肢を模索し続ける」ことは、決して歩を進めていくべき、と改めて誓いを立てる機会となりました。

◆その「機会」というのは、たまたまそのタイミングで、あるいは偶然の巡り合わせかのように見えますが、実は大きなチャンスや必然だったと捉えることもできます。

◆苦しい局面の機会ほど「これは何のチャンスか？」という視点を持ちたいものです。

◆今月もお読みいただきありがとうございます。

NPO法人 チャレンジステージ 代表理事 山下 勇雄

スタッフ紹介



入社 5年目
名前 前 萩田 拓也
担当部署 生活訓練施設「加光」
生活支援員

私はもともとスーパーの店員でしたが、より深く人と関わる仕事をしたかったと考へて、その後は介護分野へ向かうつもりでしたが、縁があって加光への一歩を進めました。正直に言えば、当初は「精神障害の方の支援」という事で内心恐れおののいていたのですが、実際に利用者さんと関わってみたら、私たちが何も変わらないうで、むしろ、逆に僕の方が良くして頂いているという感じで。今までの視野の狭かった世界観が、一気に広がって、変わりました。

利用者さんの生活を立て直して、社会参加や自立を促すこと。それは方法と答えの無い世界ですから、もちろん大変な部分があります。私の場合は、とにかく一緒に何かを進めてみる。一緒に行って、一緒に考えて、それでたとえ失敗しても、成功した部分に注目してみても、次は何をしようか考える。これがモットーです。そうして、利用者さんが喜んでくれたり、笑ってくれたりすると、とても大きなやりがいと勇気ももらいます。

とにかく、利用者さんには、「何かが出来た」という実感を覚えて欲しいという願いです。日々の生活というものは、意識的に何かをしないと、そのまま水のように流れて行ってしまう。ただ流されるがままだと、自信にも繋がらない。「俺はやったんだぞ」というものを持つてもらえたら嬉しいなと思います。

先ほど、「世界観が変わった」と言いましたが、本当にここに来てから自分が変わったと思います。もともと私は自分本位な性格でして、人の立場や物事を慎重に考えるようなタイプではありませんでした。今は利用者さんに対して何が出来るか、しっかりと意識をしている。少しは成長したという事でしようか。

現在の業務に加えて地域移行支援員をやっている事になります。まず、自分の役割が広がる中で、生き方、仕事への姿勢、人への配慮、そうしたものが人から見て格好悪いと思われないよう、これからも精進を続けようと思っております。

社長・社員の「働くとは?仕事とは?」



うめもり寿司学校
校長 梅守 康之氏

私たちが運営しているお寿司の体験教室「うめもり寿司学校」は、6年間で約40万人のお客様に訪れて頂きました。順調にここまでの輪を広げる事が出来て、心から嬉しく思っております。

この教室は、「障害があっても、病気をもっていても、生きている時間こそ、明るく笑顔で、前を向いて生きて欲しい」と、そのような素朴な「おもいやりの心」から始まったのです。そのきっかけとなったのは、まず私の長女が存在。彼女は先天性疾患を持って生まれ、20歳を過ぎに障害者認定を受けました。その介護生活中、次に四女までが白血病を発症。「なぜ、どうして...」と堂々巡りする想いに、毎日涙が流れる日々でした。

そんな折、四女がベッドの上でグルメ雑誌を開きながら、「元気がなかったらここに食べにいきなさいね」とポツリ。それで思いついたのが、寿司パーティー。治療の合間を見計らい、海苔、ネタ、シャリを病室に運び込み、一緒に巻き寿司をつくってパクリ。もう、娘や同室の子供たちは大はしゃぎ! あれほど美味しい寿司は食べた事はありませんでした。

誰かのことを想い、その人のために出来る精一杯の感謝と思いやりの心をもって、目の前の人に接する。そして、その気持ち、人の心を動かし、そこに「感動」を生む場が創られる。それが、仕事というものの、働くという事の本質なのかもしれません。

明るく前向きに考えたら、良い知恵が浮かぶもの。仕事というものは生きているということ。仕事は人生です。人が喜んでくれる事を、自分の仕事を通して感じられる有難さが、ここにあります。全ての皆様に生まれてきた意味と役割があるのです。考えて、考えて、魂の奥から使命がボタリと滴り落ちる。その使命を全うする事が出来たら、人生が豊かに、そして素晴らしいものとなるでしょう。

正真会サポートチーム「SST」Vol.3



ヨガ教室「ヨガビンディ」
藺牟田美穂子氏

赤ちゃんから年配の方まで、誰でも参加出来るヨガ教室を開講しています藺牟田です。ヨガは性別・年齢・勝ち負けに関係なく誰もが参加出来る運動であり、普段意識しない呼吸を丁寧にやることで不安や不満などネガティブな感情を緩和していきます。ヨガを通じて「加光」利用者様の心身の健康が得られると共に、幸せの輪を広げていきたいと思っております。

「生活訓練施設 加光」の利用者様向けサポート

Check

企業見学会

令和二年五月二六日、株式会社梅守本店の「うめもり寿司学校」において企業見学会が開催されました。

コロナ禍を巡る極めて困難な状況からは脱し、関西の新規感染者数が0人という状況ながらもまだ自粛ムードが若干残る中、賛否両論ございましたが、私たちはその開催による大きな価値と意義をどうしても見過ごす訳には、きませんでした。うめもり様と私たちは考え、はっぴ・マスクを装着。そうして検温や徹底した手洗いを、はっぴ・マスクを装着。そうしていよいよお寿司作り体験の開幕。シャリの分量を正確に計り、指示された通りに握りを行ない、ネタにワサビをつけた後、しゃりと合わせる。一見簡単なように見えますが、そこには熟練の技と経験が必要。皆さん、なかなか思うように行かず四苦八苦しつつも、楽しく新しい文化に触れる喜びが顔に溢れておりました。校長先生の「障害があっても、病気をもっていても、生きている時間こそ、明るく笑顔で、前を向いて生きて欲しい」という、「おもいやりの心」から始まった同教室。スタッフ様の「コロナでたいへんなことになっているけど、みんな明るく、絶対先はある、希望をもって。明日や明後日、来週にはよくなるって思っていない。今はどんな形でも助け合って、支え合っていけばいい。」という言葉に、利用者様の皆様も深く聞き、聴き入っておりました。また、「仕事」というもの「働く」ということに関する校長先生のお話も、とても大きな意義に満ちておりました。「誰かのことを想い、その人のために出来る精一杯の感謝と思いやりの心をもって、目の前の人に接する。その気持ち、人の心を動かし、そこに「感動」を生む場が創られる。それが、仕事」というもの、働くという事の本質なのです。利用者様の皆様は本当に真剣にお話を拝聴し、寿司作り体験も楽しみながら取り組まれました。これまでに見たことのないような笑顔や今後を見据える表情に頼もしさを感じました。今回の見学会で学んだ事、感じた事を、今後の就労に向けての活動にぜひ活かして欲しいと願っております。



自己紹介時に感激される校長先生と奥様、職員の方

Collage of photos from the company visit, including students making sushi, receiving certificates, and group photos. Captions describe the activities and the principal's involvement.

参加されたご利用者のKさん
「あきらめないことが大切で、どんなに苦しい状況でも頑張った方が良い。悩んでいるときは、見方や考え方を換えようと思いました。対応して頂けてありがたいと思いました。今後実習もあればトライしたいです!」
参加されたご利用者のEさん
「とても緊張していました。パワフルなテンションに最初はついていけないと思ったのですが、精一杯頑張りました。自己紹介で自分の気持ちを言えた事は嬉しかったです。緊張したけど、来てよかったと思いました。また、次も(見学会に)行こうという気持ちになりました。」

今月の利用者さん Fさん



30歳ぐらいの時、生活訓練施設「加光」に入所し、デイケアも利用していました。その後、「はたらく」という事をテーマとされている「きょうばし」を紹介される事になります。最初は1日2時間の利用から開始。それでも正直、しんどくて...でも頑張っていたら、次第に慣れていきました。その後、店舗の商品検品や陳列の仕事をして3年、倉庫内の運搬や検品の仕事を3年勤めまして、今は再び「きょうばし」を利用中。厨房内の補助作業をしながら就活をしています。今回の見学会は自分を鼓舞するような気持ちで挑みました。校長先生が思いのほかパワフルで戸惑いがあったのですが、校長先生の熱い想いや経験、技能や方法、価値観や人と社会が目指すべき道を聞いて、とても感動しました。寿司作り体験は不器用なんでもあまり上手に出来ませんが、「自分で作った」という事が最大の調味料になって、とても美味しく感じましたし、何より楽しかった。どんなに大変な時でも常に明るい気持ちで仕事をして生きよう。今、強くそう感じています。

今月のひと OG Mさん

平成18年、院長先生からの勧めで、初めてきょうばしを利用しました。その頃はとても混乱した精神状態で、「就労を目指す」なんて考えもつかない状況でした。結論から言いますと、私は救われました。本当に利用して良かったです。信頼は言葉にすると簡単ですが、それを実現するのは毎日の積み重ねが大切。その点、ここでは支援者の方が常に私のことを見て下さって、アドバイスをしてくれたり、背中を押してくれたり、その全てが有難いものでした。もし、自分たったひとりで行動を続けていたら、今の好転は絶対に無かったと思います。もちろん、それでも最初は悩みながらの前進でした。きょうばし利用の中で2回ほど就職をしましたが、自分の子供や職場の人間関係に悩んで、そちらは上手くいかず。そうして、2016年10月から現在の仕事に就労。主にキッチンでの作業専門です。ここでは店長が親切な方で、一步一步、私の活動範囲を広げてくれて。「洗い場」「調理補助作業」に、「朝の調理作業」が加わって、次は「焼き場の作業」となって。自分に出来る事が確実に増えていく。これが働く喜びなのだ、深く感動しました。帰り際、お客様が「おいしかったわー!」とか言って帰って来られるのが、すごく嬉しい。忙しい時にホールとキッチンが連携してうまく流れていくのも気持ち良いです。職場の皆さんが信頼してくれて、フォローしていただいている。母親や支援者の方にも相談できて。皆さんに感謝しつつ、今後も自分のやれる仕事を増やしていきたい、そして改善の提案もしていきたい、と考えています。働くことが心からの喜びに繋がっている今だから、感染症なんかには負けたくない。82歳の母が現役で働いている姿を目にしていますから、私もそうなりたい。娘が結婚して孫の顔を見せてくれる日も、活発に働くばあばの姿を見せたいです。色々ありましたが、これからです。私は前へ歩き続けようと思っていますよ。

